

イースターについて

樋 口 進

イースター（復活日）は、イエス・キリストの復活を記念する日です。これは、キリスト教に於いては、クリスマス、ペンテコステ（聖霊降臨日）と並んで最も重要な祝日です。

イースターは、最も古くから祝われていました。最初は、ユダヤ教の過越の日に祝われたり、その次の日曜に祝われたりして、論争が起こり（復活日論争）、ニカイア総会議（325年）以後、春分の次の満月の次の日曜日を復活日とすることに定められました。イースターという呼び名は、ゲルマンの春の女神 Austro に由来すると言われていています。

イースターは、満月を基準にしますから、クリスマスとは違って、年によって移動する祝日です。今年は、3月27日でしたが、来年は4月16日になります。ちなみに、関西学院のイースター礼拝は、4月27日（4月の第4水曜日）に行われます。教会のイースター礼拝からは1ヶ月遅れということになります。

聖書の記事によりますと、イエスの復活は日曜の早朝に起こったとありますので、それを記念して日曜日に礼拝を行うようになりました。それまでは、ユダヤ教の安息日は土曜日でしたが、キリスト教では、イエスの復活を記念して、日曜日が礼拝の日となりました。そこで、西洋では、日曜日が休日とする伝統が生まれ、日本でも明治政府が日曜日を休日としたのです。現在日曜日は、休日として定着していますが、元々はイエスの復活を記念する日として始まったのです。

イースターには、きれいに色づけされたゆで玉子が配られる習慣もあります。私は牧師をしていた時、イースターの前日はよく日曜学校の先生たちとこの玉子づくりをしました。最近「エッグアート」といって、かわいい絵の描かれているものをゆで卵にかぶせるやり方もあります。きれいに出来上がった玉子を教会のいろいろなところに隠して、イースターの日の日曜学校の生徒たちが玉子探しをするのが、子供たちの楽しい体験となっています。玉子から新しい生命がその殻を破って出てくるというのが、復活のイメージとなっているからこのような習慣が生まれたのでしょう。

キリストの復活によって、私たちが死で終わるのでなく、復活の希望が与えられていることを信じるのが、キリスト教の信仰です。